

大阪府が推進するライフサイエンス拠点



彩 都 2004年彩都ライサインスパークがまちびらき
(茨木市、箕面市)

- ◆創薬等の研究開発の拠点
- ◆医薬品関連企業やバイオベンチャーの集積

○バイオベンチャーの成果
昨年度の大規模上場(株)ステムリム)に続き、今年度は2社が上場
(株)ファンナップ: 独自技術「抗体誘導ペプチド」の実用化をめざす
クリングファーマ(株): 創薬シーズ「HGFタンパク質」の臨床試験中

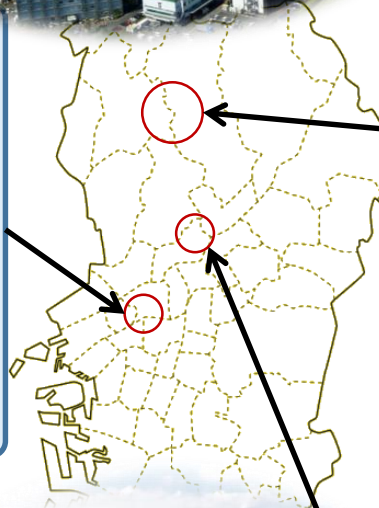
【中核機関等】

- ・大阪大学/同大学医学部附属病院
- ・医薬基盤研究所

中之島 (未来医療国際拠点)

2024年春拠点オープンをめざす
(大阪市北区)

- ◆再生医療をベースに、ゲノム医療や人工知能・IoTの活用等、今後の医療技術の進歩に即応した最先端の「未来医療」の産業化を推進する拠点



提供: 中之島4丁目用地における
未来医療国際拠点開発事業者



健 都 2019年国立循環器病研究センターがオープン
(吹田市、摂津市)

- ◆循環器疾患分野の予防・医療・研究で世界をリードする拠点
- ◆「健康・医療」に関連する企業等の集積

○ニプロ(株)進出予定

【中核機関等】

- ・国立循環器病研究センター
- ・国立健康・栄養研究所
(令和4年度以降移転予定)

今後、各拠点の形成を進めつつ、京阪神の
拠点を含めた連携を推進

彩都インキュベーション施設

彩都ライフサイエンスパーク内に3棟あるインキュベーション施設では、
中小企業の新事業展開及び大学発ベンチャーの起業を支援することにより、
新事業の創出を促進している

彩都バイオインキュベータ	彩都バイオイノベーションセンター	彩都バイオヒルズセンター
		
<p>建物：鉄骨造、地上4階建 延床：約 4,900 ㎡ ラボ：32室＋1フロアー その他：1階部分に動物実験施設</p>	<p>建物：鉄骨造、地上4階建 延床：約 2,500㎡ ラボ：18室＋1フロアー その他：4階部分に治験薬製造施設</p>	<p>建物：鉄骨一部RC造、 地上3階・地下1階建 3階フロアー：約 880㎡ ラボ：9室</p>
<p>整備：中小企業基盤整備機構 運営：バイオ・サイト・キャピタル(株) 公設民営レンタルラボ 開設：2004.7</p>	<p>整備：中小企業基盤整備機構 運営：バイオ・サイト・キャピタル(株) 公設民営レンタルラボ 開設：2008.10</p>	<p>整備：八洲薬品(株) 運営：バイオ・サイト・キャピタル(株) 民設公認レンタルラボ 開設：2006.4</p>

- ・ 設備費補助金(大阪府)・賃料補助金(茨木市)の制度有り
- ・ 多数の共同機器を完備（製氷機、純水製造装置（ミリQ水）、オートクレーブ、大型遠心分離機、
－150度ディープフリーザー、大型カラープリンター）
- ・ 彩都周辺企業・研究機関等の情報交換、研究交流、人的交流等の場「彩都ヒルズクラブ」

彩都における交流の仕組み（一般社団法人彩都ヒルズクラブ）

目的

彩都ヒルズクラブは、北大阪に位置する彩都ライフサイエンスパーク（LSP）に立地する企業及びその役職員、周辺教育・研究機関の構成員、関係機関（支援者を含む）を会員とする組織を結成し、情報交換、研究交流、人的交流の促進や利便性の向上を図ることを目的として設立。

役員

役職名	氏名	主な役職
-----	----	------

理事長	米田悦啓	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長
-----	------	------------------------------

副理事長	金田安史	国立大学法人大阪大学 理事・副学長
------	------	----------------------

副理事長	森下竜一	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄付講座教授
------	------	---------------------------------

ほか理事6名・監事2名

後援等

- 後援
中小企業基盤整備機構 近畿本部
近畿バイオインダストリー振興会議
- 助言機関
近畿経済産業局、大阪府、茨木市

主な活動内容

● 情報交流、人的交流、研究交流の促進

彩都バイオサイエンスセミナーや賀詞交歓会等の開催。情報提供・交換、教育・啓蒙活動、各種マッチングフェアなどへの協賛・協力。

● 研究、開発活動の利便性の向上

利便施設（※）の提供

※具体例

- ・共同機器（大判プリンター、-150℃ディープフリーザー）
- ・会議室
- ・ライブラリサロン（日経バイオ年鑑などの定期刊行物を配架）
- ・ウェット実験のできるデモンストレーションラボ

● インキュベーション支援

バイオベンチャー（起業をめざす研究者等を含む）に対して、会員企業や支援機関などが支援。

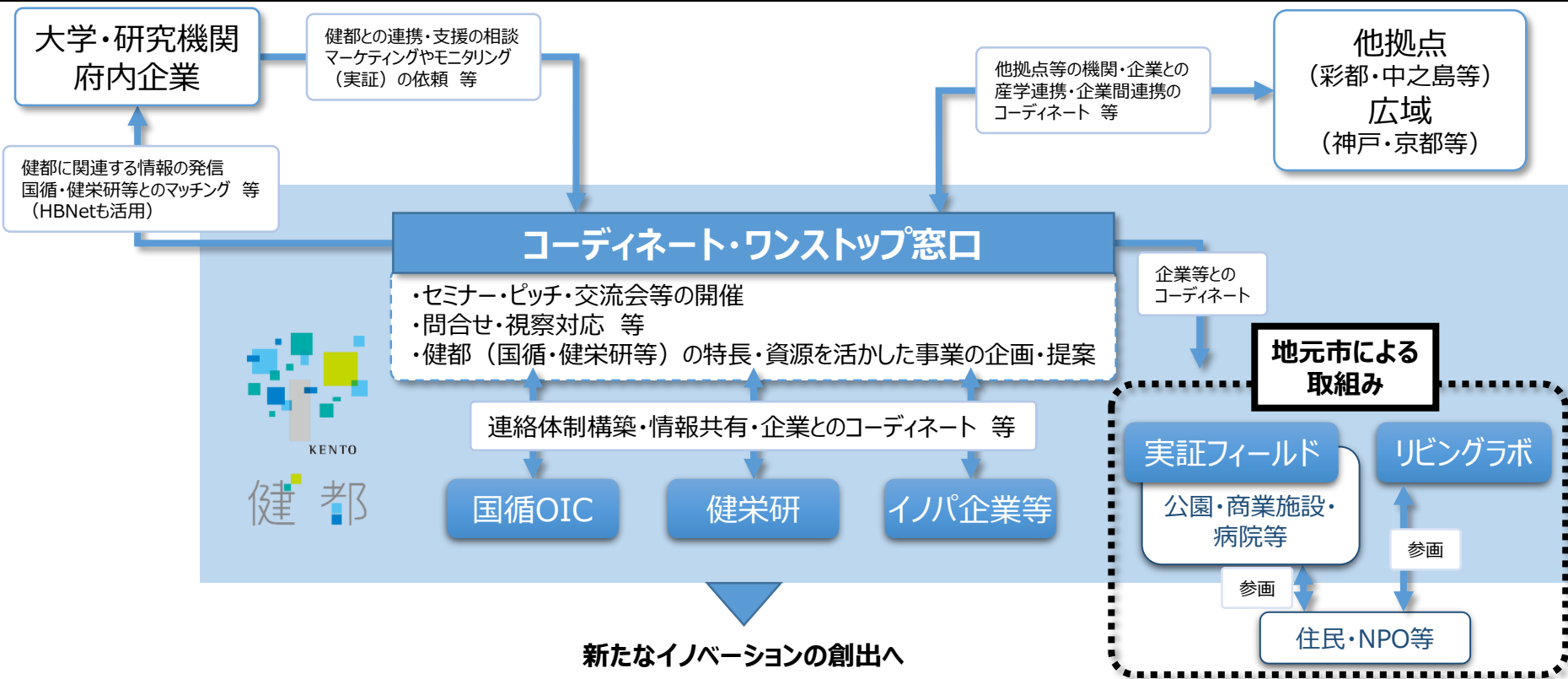
● 地域社会へのライフサイエンス知識等の啓蒙

近隣住民等に施設を開放する一般公開の開催。

● 福利厚生への貢献

スポーツイベントや健康診断の実施。スポーツ施設の提供。

健都におけるコーディネート機能のイメージ・ロードマップ

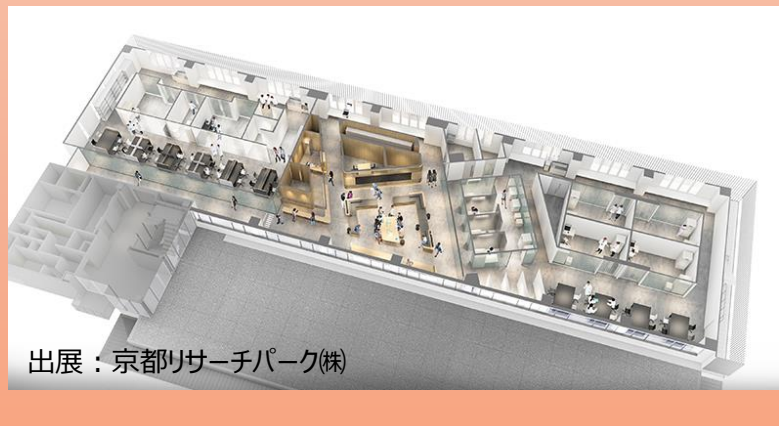


ロードマップ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
産学連携 ・交流		セミナー・ピッチ等のイベント・交流 (定期的に開催)	
		国循・健栄研等の資源を活かした 事業の検討	国循・健栄研等の資源を活かした 事業の実施
コーディネート機能 構築 (ネットワーク構築・ ワンストップ窓口)	ネットワーク構築・窓口機能の 事業内容設計	フィージビリティスタディ	ワンストップ窓口の 試行運用
		外部も含めたネットワーク構築 ワンストップ窓口準備	自立的運営に向けた 体制の整備
			情報発信

健都イノベーションパークアライアンス棟

2022年春開所予定



国立健康・栄養研究所（約3,500平方メートル）のほか、健康関連産業の企業や機関が入居可能な賃貸ラボ・オフィス・シェアラボ（約3,800平方メートル）、クラスター交流施設（約200平方メートル）等で構成される複合施設。健都の“研究交流ステーション”をめざす

(事業主：J R西日本不動産開発(株))

貸ラボ・オフィス (3F一部、5~7F)

大小様々な企業の入居ニーズに応じた賃貸ラボ・オフィス区画を整備。国立健康・栄養研究所、国立循環器病研究センターとの研究交流・連携を検討。

実験機器・日常業務サービス付きシェアラボ (4F)

ライフサイエンス系の研究機関・スタートアップ企業等をターゲットとしたサービス付きシェアラボ。実験機器をシェアし、日常業務をサポートすることで研究に専念できる場を実現。

(事業主：京都リサーチパーク(株))



健都への移転により

- ✓ 府内健康関連企業等との連携によるイノベーション創出
- ✓ 府内市町村との連携による府民の健康寿命延伸等 を期待

クラスターラウンジ (1F)

セミナーやワークショップの開催等、情報発信・交流の場として役割に加え、研究交流の一拠点としての活用を予定

未来医療国際拠点の施設構成

【未来医療の創造】未来医療R&Dセンター

【施設概要】

敷地面積：8,600㎡（大阪市所有）

延床面積：57,799㎡

【未来医療の実践】未来医療MEDセンター

リエゾンオフィス

病院

機構事務室/治験関連施設

診療所
高度健診センター

産学医連携スモールオフィス
インキュベートスペース
ワークスペース

コミュニティカフェ、未来医療ミュージアム等

診療所・薬局

カンファレンスセンター

病院

CPC

【未来医療の共有】中之島国際フォーラム

2021年3月末
運営事業者候補
決定予定

未来医療国際拠点に備える機能

※医療機関と企業、ベンチャー、支援機関等が一つの屋根の下に集積する他に類を見ない拠点

未来医療国際拠点

R&D棟

未来医療に関する企業支援

- 細胞・組織の安定供給システムの構築
- 再生医療の治験・市販後調査を支援

(一財)未来医療推進機構

MED棟

国内外の医療機関との連携

- 未来医療 医療人材育成
- 国際連携事業、ハブ機能 等

病 院

クリニック・有床クリニック

高度健診センター

産学医連携・ベンチャーエコシステム

- 未来医療に関わるスタートアップ、ベンチャーなどの支援事業
- 未来医療の連携推進（産学官、異業種、異分野、国際など）

インキュベーション

産学連携スモールオフィス

ヘルスコミュニケーション

- 社会・市民の理解増進のためのソーシャルコミュニケーション
- 異業種連携のためのBtoBコミュニケーション

未来医療ミュージアム

カンファレンスセンター

2021年3月末
運営事業者候補
決定予定